平成29年（2017）
阿づまの光
3月号・Marto

教主さまお作　鉄絵茶盌 銘「みろく村」

【天王平十熊山土】

題字出口直日

通巻第576号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

かむながら神の心にまかすこそ
人の誠のつとめなりけり

出口王仁三郎聖師

お気軽にご来苑ください

総務管理課　菊池　まゆみ

私の生まれは岩手の遠野です。幼いころ、わが家では、家の前を歩いてる人に「お茶でも飲んでけー」と声をかけて、気軽に招いていました。それは知人に限らずです。天恩郷の大道場にご奉仕に上がらせていただいて、ここ大本でもそれがなされているのに驚きました、違う点は日本の伝統文化、茶道のお抹茶を出させていただいている点です。

ご奉仕に上がって間もなく、大本のご神業に功績を残された先人を偲び、そのご遺族をもてなす『石橋会』の係員をさせていただきました。田舎者で茶道の心得もなく、初めての着物姿に有頂天だった私は、もちろん何もできず、席の責任者だった故・澤田實先生から大きなお叱りを受け、しばらく立ち直れませんでした。

後日、今度は、大道場講師をされていた故・松平隆基先生に「お抹茶を点ててください」と言われ、お出しすると「もう一杯！」を三度。すると「おいしくない。心がない」と。また心が折れてしまいました。

ある日、事務所に澤田先生がお一人でおられました。「お抹茶を」と所望され、お出しすると「もう一杯」がまたまた三度…。やはり「おいしくない」と言われました。私は「どうしたらおいしくなりますか」とお聞きすると、即座に「惟神霊幸倍坐世を言えば良い」と教えられました。

「惟神霊幸倍坐世」とは「神さまのみ心のままにお守りください」の意。それ以来、東京に来てからも「惟神…」と心を込めて点てさせていただいています。お二人の「うまい！」のお言葉はもう頂戴できませんが、来苑された方に笑顔になっていただくことが、ご恩返しと思っています。

もう一つ、来苑された方には、新しくなった「ギャラリーおほもと（東光苑）」へご案内しています。現在、展示されている中に、教主さまのお茶盌「引出黒」があります。金龍海の土で作られ鉱泉が釉薬として使われているそうですが、黒に美しい金彩が浮き出ています。

以前、出口すみこ二代教主さまが金龍海のほとりをお歩きになり「ようけ（たくさん）、金色に光ってるなー」とおっしゃっている昔の映像を拝見したことがあり、私はまさに、このお言葉が「引出黒」として具現されたものと感じています。また、聖師さまの耀盌も数点展示されています。東日本で唯一の常設展示、年中無休、入場無料です。

このギャラリーには、首都東京で本物を直接見ていただきたいという教主さまのお気持ちが込められていると伺っています。知人・友人をお誘いし、いつでもお気軽にご来苑ください。（Gis Revido!）

oomoto 開座公講

出口すみこが現代に残したもの

大道場講師／社会福祉法人愛善信光会理事長
出口 眞人

大本では、出口なお開祖と出口王仁三郎聖師のお二人を教祖と申し上げます。なおの娘が二代教主出口すみこ…。すみこにとって夫が王仁三郎で、二人の教祖は母と夫という関係です。

すみこは多くの足跡を残していますが、一番に挙げられるのが書のすばらしさです。

純粋で大らかな書

すみこの書にまつわるエピソードは、さまざま残されていますが、中でも書家の稲垣黄鶴（いながきこうかく）、哲学者の谷川徹三（たにがわてつぞう）、芸術家の北大路魯山人（きたおおじろさんじん）などから「霊筆」とか、「弘法大師や良寛和尚に匹敵する」と絶賛されたことはよく知られ、社会的にも芸術的価値が認められてきました。

妻の父・出口虎雄（とらお）（王仁三郎・すみこの次女の夫）に聞いた話ですが、「虎雄さんどう思う？　あんな偉い人たちが、私の書を見て〝偉い〟と、こう言うてるんやけど、私は馬鹿にされとるんやろか」とすみこが話される。それで父は「お母さん、そんなことないですよ。本当にすごいから皆がそうして感動、賛同するんですよ」と答えたようです。

すみこの、このような純粋でおおらかな書をきっかけに、そのお人柄にも接された、稲垣黄鶴や北大路魯山人とは、晩年まで親交がありました。

亀岡天恩郷に歌碑として立っているすみこの歌があります。

ひのもとの　くに、うまれし　かみのこよ
よきたねおまけ　のにもやまにも

世の中の人々は、みな神の子神の生き宮ですよ、良い種をまきなさい、良い行いをして、良い世の中を作りましょう、と詠まれています。

きをつよく　ひろくおおきく　こまやかに
あたたかみある　ひとになりたき

すみこの人となりが、まさに感じ取られる歌です。書としての素朴さだけでなく、こういう大らかで温かみあるお歌を、たくさん生み出されたのが出口すみこであります。

空前絶後の宗教弾圧を超えて

大本は昭和10年12月8日、第二次大本事件として、国家による二度目の宗教弾圧を受けることとなります。これは全くのえん罪で、日本宗教史上、空前絶後の他に例を見ない、長きにわたる大弾圧事件となります。

王仁三郎は即刻投獄され、すみこも翌昭和11年3月14日から未決勾留されます。全国で3千人が検挙され、16人が拷問に耐えかねて獄死しました。

すみこは6年3カ月という長期間投獄され、王仁三郎とともに昭和17年8月7日に保釈出所されます。

昭和20年5月には、第二次大本事件も晴天白日の下に解決し、大本は愛善苑と言う名で再発足しました。初代の愛善苑主・王仁三郎が昭和23年1月19日に昇天し、二代目の苑主としてすみこが就任しています。

私は、二代すみこが苑主時代、昭和27年3月31日に亡くなられるまでの約4年間に、今日の大本教団の基礎固め、教団の歩む道筋を作り上げてくださったと思っています。

例えば、愛善みずほ会の設立です。これは戦後の増産運動から始まった農業技術指導を主とした全国組織で、現在は食糧・環境問題の啓発まで広く活動しています。また大正14年に王仁三郎が創設し、活動休止を余儀なくされていた人類愛善会を再発足、同じく愛善エスペラント会の再発足、芸術や文化活動を推奨して大本楽天社も設立しています。現在、大本で浸透している茶道や書道、作歌や能楽などは、この楽天社の活動によって今に続いています。

また世界連邦運動やみろく殿の建設など、特筆すべき大きなご業績が数ある中で、取り分けて国の未来を担う子どもたちの、神性の開発に、非常に力を注がれました。

神性を活かす亀岡保育園

すみこは戦後間もなくから、子どもの情操教育に大変力を注がれます。まず第一に少年育成が重要と、大本の青少年育成の基礎的な場である少年夏期学級を、昭和23年に始められています。少年夏期学級とは、夏休みに小・中学生を集めて3泊から4泊の合宿を開き、自然の中で火や水、お土の大切さを、み教えとともに体験するという、林間学校のような行事です。

また昭和24年から、夏の1カ月間、農繁期の忙しい時期に子どもたちを預かり、お母さん方にも畑仕事や田んぼ仕事ができる環境づくりをと、青空保育所を開設します。それが昭和26年には、社会福祉法人愛善信光会を設立し、正式に亀岡保育園として開園するのです。私は今、保育園を運営している愛善信光会の理事長という立場で、日々、子どもたちとふれあっております。

ちょうど先日、第66回秋季大運動会がありました。おかげさまで二代すみこの時代に開園した保育園が、66年の歴史を重ねて今日に至ったのです。

亀岡保育園は、特色の一つとして本格的なお茶室があり、子どもたちは毎月10日の月釜に、蹲（つくばい）を使って手と口を清め入席しています。子どもたちを迎えに来る保護者の方も、入席体験を致します。年に一度の祖父母参観日には、年長さんがその日に向けてお茶のお運びのお稽古をして、お爺ちゃんお婆ちゃんたちに、薄茶を一服差し上げています。

毎日の給食の時間には、食事に対する感謝の気持ちを養うために、手合わせ、すみこの歌を3首唱えてから箸を取ることにしています。

天の恩 土の恵みに 生まれたる
菜の葉一枚 無駄に捨てまじ

一粒の 米の中にも 三体の
神いますことを 夢な忘れそ

火のご恩 水のお恵み 土の恩
これが天地の 神のみ姿

食事の前、園児たちはお当番さんに合わせて、「天の恩土の恵みに…」と唱和します。実はこの3首のあとに、子どもたちはさらに感謝の一言を、声を揃えて唱えます。「僕たち私たちは、好き嫌いなく残さず食べます」と。

二代すみこが残したお歌の心に、少しでも近づくことができればと、そんな願いを持ちつつ、亀岡保育園の、給食の在り方として取り組んでいるのです。

お泊り保育時の外部食堂でも、あるいは大本で七草粥をいただく時も、遠足の折、野原でお弁当を広げる時も、常に三首のお歌を唱和してから、箸をとることを慣わしとしています。

また保育園内に、大本のご神前があることも特色の一つです。ご神前では毎月、月次祭というお祀りが執り行われ、この月次祭に、年長さんは年に3回、11月、12月、2月と参拝をします。そして全員が神さまに玉串捧奠をさせていただきます。このような園生活は他に類を見ない、子どもたちの将来にとって、貴重な体験だと思います。

「もったいない」の精神

幼児教育として、職員も意識を高め、お水の大切さなどを繰り返し指導しています。水道の蛇口から水を流しっぱなしにしていたら、「もったいないやろ、用がないやろ。お水は用があるように活（い）かさんとあかんのや」と、繰り返し子どもたちに伝えています。「歯磨きをするとき、手を洗うとき、流れっぱなしだともったいないから、きちんと蛇口を閉めましょう」と。その都度口すっぱく言って、子どもたちとお付き合いしています。

妻の姉、出口操（みさお）は、すみこと王仁三郎の孫にあたります。昭和23～24年の姉がまだ若い頃、従姉妹たちとともに、お水を少しもったいない使い方をしてしまったそうです。それを見た祖母すみこから、「なんというもったいないことをするんや、お水はやがては買（こ）うて飲まんならんような時代も来るんやで」と、強い口調で叱られたそうです。

姉は、「おばあちゃん何言うてるんやろな、お水を買うて飲むなんて」と、その頃はまったく奇異に思っていたそうです。ところが今になってみれば、当たり前のように買って飲んでいます。お水が500CCで110円位ではないでしょうか？　500CCは500㎖ですから、ガソリン1ℓの半分です。無意識で忘れがちですが、ガソリン1ℓなら今は125円前後。ということは、お水の値段がガソリンの倍ほどになります。

お水に対して、私たちの意識はまだまだ薄いと思います。ガソリンは貴重という思いがありますから、流したり捨てたり絶対しませんが、値段で考えたら水も高価なものになっています。

当たり前の話ですが、水は生活に密接しています。少し停電しただけでも、器具によっては蛇口から水が出ない時代です。水に限ったことではありませんが、当たり前すぎて希薄になってる天地のご恩、幼い頃から感謝して生活することの大切さを、子どもたちと接しながら強く思わされます。

天地のご恩に感謝して

保育園では、サツマイモやジャガイモの植え付け、また収穫などの体験を通して、お土に対する感謝というものを楽しみながら感じてもらっています。

地の上に 住む神の子が 土の恩
忘れてくらす うたてかりけり

人はみな 土よりいでて 土に生き
土の恩うけ 土にかくるる

一さいを 生み出す土の 神の恩
知らずに送る 人ぞうたてき

世の中のすべてのものが、神さまのご恩によって、お土が生み出してるんだということを、自覚しなければならないと思います。

いつの世が めぐり来るとも 世の中の
たからは人の 誠なりけり

人は宝…。未来を担う子どもたちは、世の宝であります。大本二代教主出口すみこの思いを、今の私たちの日常生活の中に活かし、誠ごころで、未来のために良き種をまいていかなければならいない時代だと強く感じます。

掲載文は、平成28年10月19日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

節分大祭遥拝祭

開教125年節分大祭遥拝祭は、2月3日、午後6時30分から斎主・猪子恒東京宣教センター次長のもと執行され、89人が参拝した。

大祓行事では、参拝者全員で「神言」が繰り返し奏上される中、祭員が東光苑内各所を修祓。祭典後、『大本神諭』拝読、斎主・祭員によって豆まきが「鬼は内、福は内」の掛け声にあわせて行われた。

引き続き、猪子次長が浅田秋彦本部長の節分大祭あいさつを代読した。

その後、ご神前でダルマや干支の飾り物が当たる「福引き」が行われたほか、食堂では直会として温かい甘酒が参拝者に振る舞われた。

第35回企業繁栄祈願祭

日　程　4月23日（日）午前10時30分

場　所　大本東京本部・東京宣教センター

申し込み　ご希望の方は申込用紙を送付しますので、下記までご連絡ください（なお昨年申し込みいただいた方にはこちらから郵送いたします）

申込先　〒110-0008 台東区池之端2-1-44
大本東京本部・東京宣教センター内 東光経友会
TEL 03-3821-3701　FAX 03-3821-5283
mail tokyohonbu@oomoto.or.jp
※玉串は後日郵送か当日持参かを必ず明記してください

玉串料　一企業につき1万円以上（申込書に添えて玉串袋にてお納めください）

締　切　4月17日（月）
※ご祈願は4月29日（土）までの1週間執り行います

東光苑月次祭

東光苑月次祭・豊年祈願祭・市杵島姫命例大祭は、2月12日午前10時30分から、斎主・高野春樹祭務課長のもと執行され、298人が参拝した。

祭員は関東教区各主会青松会員、少年祭員は東京主会の清水春希さん、玉置巴さん、伶人は二絃の会関東支部、『いづのめしんゆ』拝読は関谷壮一千葉主会長、添釜は中村社中が担当した。

祭典後、教主さまの開教125年節分大祭ごあいさつを拝聴。次いで浅田秋彦本部長があいさつに立ち、「み教えの実践のリーダーとしてみ教えを知らない方々に救いの手を差し伸べ、関東一丸となって先駆けのご用にお仕えいただきたい」と述べ、生きがい講座、大本公開講座等の開催やお誘いについて強調した。

21世紀・生きがい講座

第168回「21世紀・生きがい講座」は、2月15日午後7時から、港区新橋の航空会館で開催され、椎野恭三祭務課主幹が「出口王仁三郎が示した世界」～霊界物語と九州筑紫島～と題して講話した。参加者は36人（内、一般6人）。

講師は、筑紫島を舞台として展開される『霊界物語』の内容を紹介しながら、九州各地にある霊地・霊跡と神々の因縁について解説。「聖師さまは国内はもとより実際に訪れたことのない海外の様子まで時間・空間を超越して『霊界物語』に示されている。まさに〝神秘のカギ〟が隠されている神書」と語った。

参加者からは「九州について大変興味深く聞かせていただいた」（男性・一般）等の声が寄せられた。

●離任あいさつ

鈴木 林太郎（愛善宣教課主事）

このたび亀岡宣教センター総務部総務課へ異動となりました。3年4カ月と短い間でしたが、関東教区の皆さまには本当にお世話になりました。心より深く御礼申し上げます。

皆さまからいただいた励ましのお言葉を糧に、新しい部署でお仕えさせていただきたく存じます。

聖地で皆さまとの再会を楽しみにしております。

●着任あいさつ

橋本 伸作（愛善宣教課主幹）

東京宣教センター愛善宣教課に配属されました橋本伸作と申します。

平成元年にご奉仕を許され、編集部、総務部を経てこの度の異動となりました。開教百二十五年の新たな季節の始まりに際して身の引き締まる思いをいたしております。関東教区の皆さまにはご指導ご鞭撻を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

東光苑祭典・行事予定

3月

12日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・交通安全祈願祭・関東教区春季合同慰霊祭

15日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（新橋・航空会館）
講題　出口直日、日出麿からみたみろくの世～立直しの提言～
講師　猪子　恒（東京宣教センター次長）

24日（金）～26日（日）
東光苑春季祭式講習会

31日（金）午前10時30分執行
二代教主毎年祭（65年）

4月

1日（土）午前10時30分
東光苑観桜茶会

2日（日）午前9時30分（9時受付）
新入信徒研修会（春の集い）

9日（日）午前10時30分執行
東光苑春季大祭

19日（水）午後7時～8時30分
21世紀・生きがい講座（新橋・航空会館）
講題　死後の世界～人はなぜこの世に生まれたのか～
講師　柿崎　哲男（愛善宣教課主任）

23日（日）午前10時30分執行
第35回企業繁栄祈願祭

29日（祝・土）午前10時30分執行
四代教主毎年祭（16年）

大本東京本部ホームページ
URL http://oomoto-tokyo.com